

防災への意識改革

Vol.298

室内に潜む危険性

突然の地震に襲われて、自分や家族が“けが”をしたら、どうなるでしょうか。けがを負うと、その後の避難行動や地域の一員としての役割（共助）など全てに支障が生じます。地震発生時にけがをするかどうかは、揺れ始めから3秒間の行動で決まると言われています。

皆さんの家庭内(室内)を見渡して、潜む危険性を考えてみましょう。家庭内でけがをしないための予防策は「家具の固定と配置」と「家族全員の行動ルール」です。

■ 家具の固定と配置

室内にある全ての家具が固定され、ガラスに飛散防止フィルムが張られていることが理想です。固定できない家具がある場合は、どの向きにどの位置まで転倒するか(被害に遭うか)を考えます。

地震が就寝中に発生することも考えられるので、もし転倒が心配される位置で就寝している場合は、家具の配置を変えるか、就寝位置を変えましょう。

家族全員で、それぞれの部屋の中で、危険な場所、安全な場所はどこかを認識しましょう。室内に必ず1カ所は安全な場所を作ることが大切です。また、避難経路を確保するためには、倒れた家具でドアがふさがらないように配置を工夫してください。

テレビ、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、照明器具などについても凶器とならないように、転倒防止や落下防止の対策をとりましょう。

■ 家族全員の行動ルール

揺れに気付いたら、身を低くし、テーブルなどの下に隠れて、頭、体を守り、揺れが収まるまでじっと待ちます。身を守るために効果的なのは「周囲をよく見る」「落下物から離れる」「低い姿勢をとって頭を守る」ことです。

揺れているときは、お互いに声を掛け合い、安全な場所にいることを確認し、無理な行動は控えましょう。子どもやお年寄りにも「室内の安全な場所」を教えておくことが大切です。

「家庭でできる地震対策」については、愛知県のホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/bousai/katei/index.html>) で公開されています。日ごろの地震対策の参考にしてください。



熊本地震後の室内の様子

家族が離れているときの安否確認の方法

大きな災害が起きると、人々が一斉に電話やインターネットを使用するため、回線が混み合い、電話などがつながりにくくなります。そうすると、命に関わる救助要請もできなくなる可能性があるため、なるべく電話の使用は控えてください。その代わりに、緊急時にサービスを受けられる「災害用伝言ダイヤル171」や「災害用伝言板」の利用を心掛けましょう。

災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板は、毎月1日、15日、正月三が日、防災とボランティア週間(1月15日～21日)に体験利用できます。もしもの時に備えて、使用手順を確認しておきましょう。



 防災行政無線情報は電話でも

防災行政無線が聞き取りにくい場合は、
 **(48) 7030**で確認してください。
 最新のメッセージを聞くことができます。

防災交通課 ☎(48) 1111 (内1210)